



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No.249

2019.1▶2

発行日 2019年1月1日

編集・発行一般財団法人千里文化財団

明けましておめでとうございます

本年も国立民族学博物館ならびに国立民族学博物館友の会をよろしくお願いいたします

昨年、2018年は、大阪北部を震源とする地震の影響を受けて、3カ月の休館を余儀なくされ、その後の台風の被害もこうむるなど、民博にとっては、試練の1年でした。おかげさまで、みなさまのご支援のもと、館の展示は全面復旧を果たし、むしろ災害に強い設備を備えるようになってきています。この間のみなさまのご支援と温かい励ましのお言葉に対し、心より御礼を申し上げます。

新たな年、2019年には、館の基幹的研究プロジェクトとして推進してきた「特別研究」や「フォーラム型情報ミュージアム」も、これまで以上に国際性・共同利用性を高めて新たなステージに進みます。また、展示では、展示場とサイバー空間をつなぐ、次世代のビデオテークと電子ガイドの本格導入も始まります。

私どもは、今後とも、開かれた博物館づくりに精進してまいります。

友の会のみなさまの引き続きのご支援を心よりお願いいたします。

新しい年がみなさまにとりまして実り多い年でありますよう、お祈りしております。

国立民族学博物館長 吉田 憲司



年末年始展示イベント「いのしし」開催中！

みんぱくのお正月を見に行こう！

会期 1月22日（火）まで
場所 みんぱく本館展示場 ナビひろば

古くから人とともに生きてきた「いのしし」。肉や牙などを食料や道具として利用するだけでなく、その姿は人形や絵の題材としても関心を持たれてきました。

人びとが「いのしし」の形にどのような興味を感じ、長い歴史のなかで関係を築いてきたのか、「かざる」「つかう」「めぐる」の三つのキーワードで紹介します。中国などではいのしし年がふた年になる地域もあるそうで、「ぶた」の資料も登場します。ぜひ会場に足を運びください。



土鈴【日本】(国立民族学博物館蔵)

関連ワークショップもチェック！

かざってポン！ へんしん いのしし

開催日：1月14日（月・祝）
時 間：10:00～17:00
（受付終了 16:30）
参加費：無料（先着 200名）

※参加者全員に、みんぱく亥年カレンダーとオリジナル缶バッジをプレゼント！

★詳しくは民博ホームページをご覧ください。

友の会 入会キャンペーン 実施中！！

あなたの大切な人を
ご紹介ください。

ひとりが
ひとりを！

1月31日(木)
まで！

みんぱくをもっと知ってもらい、有意義に活用していただくために新規入会をお誘いするキャンペーンを実施しています。「ひとりがひとりを」をかけ声に、お知り合いの方を「友の会」へお誘いください。

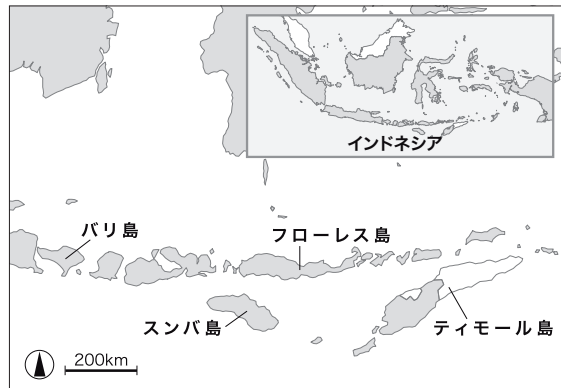
期間中にご入会いただいた方にご紹介いただいた方に素敵な記念品をプレゼント！

★詳しくは友の会ホームページをご覧ください。

【お詫びとお知らせ】

第80回体験セミナー「長崎県、潜伏キリシタンの足跡を訪ねる」は早々に定員となりました。たくさんのお申し込み、ありがとうございました。また、12月に郵送しました上記催しの申込用紙に記載のある、友の会事務局の電話番号に誤りがありました。正しくは06-6877-8893です。ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。

2019 年度上半期は インドネシア東部の住まいを訪ねます！



昨年 3 月に実施した第 90 回民族学研修の旅では、インドネシア西部のニアス島とスマトラ島を舞台に、個性豊かな木造建築・伝統集落の数々を訪ねました。インドネシアの家屋や集落には、配置や方位、装飾やシンボリックな形状に人びとの世界観を見ることができます。その続編企画として、次回の民族学研修の旅は、東部のヌサトゥンガラ諸島に足を運びます。フローレス島、ティモール島、スンバ島の 3 島を舞台とする密度の濃い 12 日間。伝統的な木造建築を維持する集落の見学に加え、独特の生態系を保つ島の自然を堪能するプログラムも計画しています。一帯はイカット（絨織）の有名な地域です。美しい手仕事もお楽しみください。

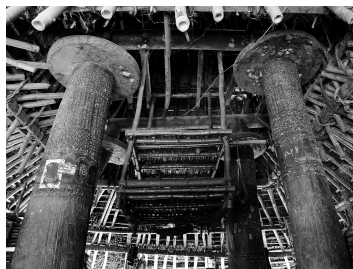
募集開始は 2 月の予定です。ひと足先に旅の見どころを紹介します。



③



①



④



②

①ティモール島アトニ人の穀倉。収穫物や家宝の貯蔵庫であると同時に、床下は集会場として利用された ②フローレス島リオ人の巨大な中心家屋 ③スンバ島の集落。とんがり屋根はマラブの居場所 ④スンバ島の家屋内部。天井を支える柱のネズミ返しが穀倉由来であることを物語る（提供・佐藤 浩司）

人間にとってなくてはならない住空間のあり方は、この半世紀の間に大きく変化しました。個人のものでも、人間のみの所有物でもない「住まい」本来のあり方をインドネシアの島々に学びます。みなさん、ぜひ一緒に学びましょう。

※予定は変更することがあります。
※事前お問い合わせをいただいた方には、1 月募集開始予定の旨ご案内しておりました。この場を借りてお詫言しますとともに、ぜひご予定ください。

■フローレス島

島を横断し、複数の民族の伝統集落を訪ねます。マンガライ人の家屋はほかに類を見ない円錐形の高床住居。一軒の巨大な木造家屋で複数の家族が生活をともしにしています。リオ人の集落は円環状の石積み広場を中心に、周囲を家屋が囲みます。儀礼の場として利用される氏族の中心家屋はひととき大きく、東インドネシア最大の木造建築といわれています。

蜘蛛の巣のような形状の水田の散策や、クリムトゥ山の早朝見学なども予定しています。山頂では、光の加減で湖水の色が変化するカルデラ湖をのぞみながら、ご来光を拝みます。

■ティモール島

島は東西に二分され、オランダ領であった西半分が現インドネシア領にあたります。西部の主要民族アトニ人の伝統集落を訪ねます。傘のような形の穀倉と蜂の巣のように丸い住居はハレとケの関係にあります。本来、王や貴族しか所有できなかった穀倉は、その構造や用途に王の權威を見ることが出来ます。

■スンバ島

周辺島嶼部の多くがキリスト教に改宗するなか、島民の三割が島独自の宗教「マラブ教」を信仰するスンバ島。空高くそびえるとんがり屋根が伝統家屋の特徴です。「マラブ」と

は親族集団の祖霊や始祖のこと。屋根裏はマラブの居場所であり、限られた立場の男性が年二回の儀礼の時にしかあがる事ができません。人の居住空間もマラブを前提に設計されており、その配置にスンバ人の世界観を見ることが出来ます。

旅の参考にご利用ください

- 訪問先の島々の住まいは『季刊民族学』でも紹介しています。
 - ・ 43 号 P24 ~ 35 「チモール島の住まい」
 - ・ 62 号 P86 ~ 99 「穀倉に住む——ロンボク島、バリ島の住空間」
※經由地のバリ島で、先住民バリ・アガ人の集落も見学予定。
 - ・ 74 号 P6 ~ 17 「巨大なとんがり屋根の謎——スンバ島の家屋」
- みんなの映像番組（館内ビデオテーク）
「マラブの家」「スンバ島の家を建てる」「インドネシア・スンバ島の家」
- 講師個人ページ「建築人類学者の眼」<http://www.sumai.org/>

インドネシア東部、 ヌサトゥンガラ諸島の 住まいを訪ねる（仮）

同行講師：佐藤 浩司（民博准教授）
期 間：2019 年 6 月～7 月上旬の間
[12 日間（予定）]
参 加 費：50 万円程度
受付開始：2019 年 2 月 1 日（金）

■第485回■

アンデスの箱型祭壇が
伝えるもの

農村の生活から歴史記憶まで

講師:八木百合子(民博助教)

日時:2月2日(土) 13時30分~14時40分

数々のミニチュア人形に彩られたアンデスの箱型祭壇は、ペルーを代表する民衆芸術の一つです。特に二〇世紀後半から、ペルー南部のアヤクチュ出身の職人たちによって、農村の祭りや生活風景を描いた作品が数多く生み出され、脚光を浴びてきました。一方、そのなかには、農民たちが犠牲となった暴力の歴史を物語る作品も存在します。本講演では、箱型祭壇に描かれた場面について紹介するとともに、歴史的な出来事を主題にした作品が創り出された背景について考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

■第486回■

キリスト教で読み解く
韓国の歴史と文化

講師:太田心平(民博准教授)

日時:3月9日(土) 13時30分~14時40分

日本に仏教を伝えた地域として知られる朝鮮半島。儒教の国としても知られる韓国。しかし、統計をみると、宗教があるという人のうち過半数がキリスト教徒です。どうしてこれほどキリスト教が普及したのでしょうか。それを紐解けば、日本とは大きく異なる韓国の近現代史と、あまり知られざる現在の姿がいつぱいです。植民地から軍事独裁へ、民主化運動と格差社会。そして、エネルギッシュな若者たちの生き方まで、キリスト教を鍵に考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

■第125回 東京講演会■

米国先住民ホピの暮らしと
世界観

講師:伊藤敦規(民博准教授)

日時:3月9日(土) 13時30分~14時40分

会場:モンベル御徒町店4Fサロン(定員:60名)

米国アリゾナ州のグランドキャニオンの近くに保留地を持つ先住民ホピは、乾燥した土地に暮らす農耕民です。農作物の生長に欠かせない降雨を祈願する儀礼には、超自然的存在カチーナが現れます。動物や植物や自然現象そのものを表し、その存在自体が雨雲の化身とみなされています。民博はカチーナ人形資料を二八一体収蔵しています。ホピの人びとによる資料解説映像を通して、彼らの暮らしと世界観を紹介します。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。
※要事前申込/会員:無料 一般:500円

ハガキ、FAX、メールにて事務局までお申し込みください。実施1週間前を目安に参加証をお送りします。

イベントスケジュール

■企画展「旅する楽器 ― 南アジア、弦の響き」

2/21(木)~5/7(火)

■年末年始展示イベント「いのしし」

開催中~1/22(火)

※年末年始休館日:2018/12/28(金)~1/4(金)

●友の会講演会

1/5(土) 須藤健一
2/2(土) 八木百合子みんなく前館長が
お話しします!

●みんなくゼミナール

(本館セミナー室ほか(予定))

1/19(土) 三尾稔 2/16(土) 齋藤晃

●みんなくウィークエンド・サロン

1/6(日) 関雄二 1/13(日) 林勲男
1/20(日) 松尾瑞穂 1/27(日) 山本泰則
2/3(日) 上羽陽子 2/17(日) 寺村裕史
2/24(日) 園田直子

●その他の催し

1/14(月・祝) 年末年始展示イベント「いのしし」
関連ワークショップ
「かざってポン!へんしん いのしし」
2/24(日) 無料観覧日

【館外での開催】

●みんなく映画会

・みんなく映像民族誌シアター
(会場:淀川文化創造館 シアターセブン)
1/12(土)「カラハリ砂漠のトランスダンス」
1/26(土)「ネパールの30年」
2/9(土)「アリラン峠を越えていく
―在日コリアンの音楽」
2/17(日)「中国雲南省大理盆地の回族」・みんなくワールドシネマ
(会場:ホテル阪急エキスポパーク)
2/23(土)「ママのお客」

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

ぼくのみんぱく日記
画・中川洋典

十月二十日(金)
マレーシアノ
ボルネオ島
デハンノ斜面
運搬二船が
使ワレマスヨ。
山ノ船デス。

会員による
会員のための学習機会みんなく友の会
雑学サロン

1/19(土) ぶらぶら民族学「まんぷく・ラーメンミュージアム」説明会

2/16(土) 雑学☆発表会「スリランカ―仏教遺跡と紅茶畑を訪ねて」

日程:第3土曜日 15:15~16:30

場所:本館2階第3セミナー室

問い合わせ先:田和、谷北、山本(実行委員) zatsugakusalon@gmail.com

申込不要
会場にて友の会
会員証、フリーパスを
ご提示ください。

■第481回■ 2018年10月6日(土)

地球時代の片隅で

——あるインディアンとウミガメの物語

高木 仁 (民博外来研究員)

今回は、大航海時代に英国の保護下に入ることで勢力を伸ばしたカリブ海のあるインディアンたちを例に、地球時代を生きた私たちと稀少動物のアオウミガメとの関わりについて考えました。

私が調査に入ったニカラグア大陸

棚の近海は、西欧の人びとにより発見された当初から、その動物資源の豊富さで一置かれていました。なかでもそこに生息する草食性のアオウミガメは、一九世紀中葉から二〇世紀にかけて食料としてイギリス本国で珍重され、それから作ったスープは爆発的な人気を得ることとなりました。イギリスではあまりの人氣に品薄状態が続ぎ、手に入りづらいアオウミガメの代わりにマトン肉と子牛の骨などを使って調理した偽ウミガメのスープも誕生したほどでした。

こうしたアオウミガメの供給源となったカリブ海の英領ケイマン諸島では、アオウミガメ漁が大掛かりな産業として展開していき、近海のインディアンたちがそれらと関係を結ぶことで数多くのアオウミガメを



ニカラグア大陸棚近海 (ミスキート諸島のインディアン村落)

漁獲生産していききました。今回の講演会では、そうしたニカラグア大陸棚の近海における人為的な利用の歴史の変遷と、現代のインディアンたちによる集約的な漁獲の論理に関する研究結果を幅広く紹介しました。

講演会終了後、参加者からは、「英国で最上級の食材として、ウミガメ料理がふるまわれている理由がわからなかった」などのご感想をいただきました。

懇談会では地球時代を生きた私たちの動物観がどのような歴史的影響を受け現代に至っているのかについて話し合いました。

■第482回■ 2018年11月3日(土・祝)

震災を経ても土地に生きる

——南三陸町波伝谷、12年間の映像記録を通して

我妻 和樹 (映画監督)

日高 真吾 (民博准教授)

二〇一一年以降、民博では三陸沿岸の民俗芸能を紹介し、私たちが東日本大震災の被災地とどう向き合うのかを考える場を設けてきました。その流れのなかで、震災までの三年間の日常を追った我妻監督のドキュメンタリー映画『波伝谷に生きる人びと』を二〇一六年に上映します。震災以降「被災地東北」を描いた映像が数多く作られました。が、震災以前を描いていたのはこの作品一本でした。特別展「工芸継承」や東北の芸能公演を民博で開催した背景には、被災地を応援するとともに、震災以前から営まれてきた東北本来の豊かな生活文化を感じてほしいという気持ちがあります。

講演会で紹介した『願いと揺らぎ』は『波伝谷に生きる人びと』の続編にあたる我妻監督の作品で、震災一年後の波伝谷の人たちの想いに焦点を当てています。監督は学生時代に携わった民俗調査をきっかけに、地域の結びつきが強い土地柄に惹かれて波伝谷を訪ねるように



波伝谷の人びとと心のよすがとなったお獅子さま (映画『願いと揺らぎ』より)

なりました。しかし震災を境に波伝谷は一変。集落の高台移転や漁業の共同化、地域の結びつきを象徴する行事「お獅子さま」の復活などの課題に直面するなかで、人びとのすれ違いが顕著になります。映像はさらに時を経て、震災一年後の葛藤を振り返る若者のインタビューで幕を閉じます。震災が生んだひずみを受け止めながらも互いに生きる道を選んだこと、煩わしさも含めた人間関係のなかで地域の絆が構築されていること、そこに社会の「共生」のヒントが見いだせるのではという指摘を、我妻監督にお話しいただきました。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1 (国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00～17:00) FAX：06-6878-3716

e-mail: minpakutomo@senri-f.or.jp

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

年末年始休館・休業のお知らせ

国立民族学博物館と友の会事務局は下記の期間、休館・休業いたします。

【国立民族学博物館】

2018年12月28日(金)～2019年1月4日(金)

※新年は1月5日(土)から開館いたします。

【友の会事務局】

2018年12月28日(金)～2019年1月6日(日)

※第484回友の会講演会は1月5日(土)に開催いたします。

2019年も、みなさまのご来館をお待ち申し上げております。